

～今一度ご確認をお願いします～

斑点米カメムシ類防除の徹底を！

本年度のカメムシ類の発生は例年より多く、滋賀県が令和6年7月17日に注意報を発表されています。カメムシ類は米の斑点米の原因となり、発生量によっては大きく米の等級ダウンにつながります。今一度、以下の点に注意いただき収穫までの管理をよろしくをお願いいたします。

防除対策

- ①畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となるため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草作業を徹底しましょう。
- ②水田内にヒエなどのイネ科雑草がある場合には、斑点米カメムシ類が集まるので早急に抜き取りましょう。
- ③ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く生息しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除し、大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）に防除しましょう。
- ④イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ防除しましょう。

写真 斑点米カメムシ類の成虫と斑点米

滋賀県病害虫防除所データより



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



イネカメムシ



斑点米（着色しているもの）

収穫間際までの水管理を！

本年度も猛暑の影響により、水不足を起こしているのではないかと心配するほ場が散見されています！水稻は、出穂期前後に水不足が起きると十分に光合成が行えず、白未熟粒発生要因にもつながります。また、生育後期の水不足は胴割粒・粒張の悪い米の原因にもつながりますので注意してください。

【参考】水管理が玄米品質に及ぼす影響

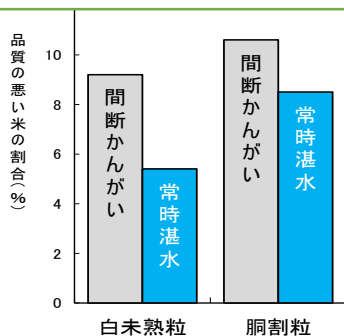


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係

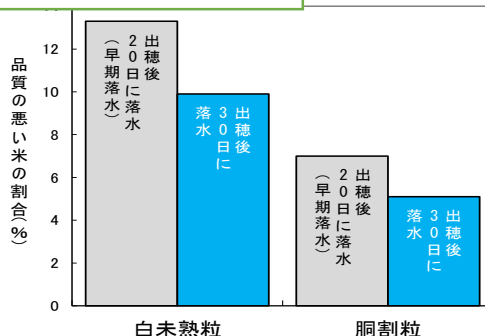


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係

